



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

山梨県 富士吉田市立明見中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和4年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的：オリンピック（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名：JOCオリンピック教室
- 主催：公益財団法人 日本オリンピック委員会（JOC）
- 後援：スポーツ庁
- 協力：公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象：中学2年生
- 講師：オリンピック（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間：2022年4月～2023年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数：80校程度
- 実施方法：クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、チームワーク、フェアプレー、身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、
分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、
今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した
自己紹介



オリンピック自身の経験に基
づく「オリンピックの価値」等を
伝える



個人またはグループワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■オリンピック : 小塚 崇彦 先生 (スケート/フィギュアスケート)【出場オリンピック/バンクーバー2010冬季大会】

■期 日 : 2022年7月8日(金)

■ク ラ ス : 2年1組/運動の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ 準備体操



・オリンピックバリューの3つの価値について、エクセレンス：「卓越」「昨日よりも今日、今日よりも明日」「最後まで諦めない」、フレンドシップ：「友情」「お互いを理解する」、リスペクト：「敬意/尊重」「互いに思いやりを持つ」「ルールを守る」、スポーツにおいて大切なことであると説明し、運動の時間では、オリンピックで感じたことを皆にも体感してもらいたいと伝え、準備体操に移る。

○主運動 等



・準備体操としてスキップやサイドステップ等の現役時のウォームアップを実施。準備運動として「新聞じゃんけんバランス」を実施(全3回)。
 ・主運動として「ボール渡しリレー」を実施(全2回)。班対抗とし、スタート地点から、折り返し地点を回りゴールするまでに全員がボールを触る。全員が必ず折り返し地点を回り、ボールを所持している人はその場から動かない等として実施。



・運動の時間を振り返り、ルールを理解し、読み解くことも大切であり、オリンピックバリューにおけるエクセレンスである。作戦タイムでは1回目より結果を伸ばすため、班毎に相談し合い、意見を出し合い、ルールを理解し取り組んでいた。座学の時間では、運動の時間に体感してもらったオリンピックバリューについて、自身の経験も交えながら、さらに掘り下げていきたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 小塚 崇彦 先生 (スケート/フィギュアスケート) 【出場オリンピック/バンクーバー2010冬季大会】

■ **期 日** : 2022年7月8日(金)

■ **ク ラ ス** : 2年1組/座学の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ オリンピックの価値を伝える



・オリンピックシンボルに込められた2つの意味や、近代オリンピックの創始者であるピエール・ド・クーベルタンについて説明した後、バンクーバー2010冬季大会の映像を見せながら、演技終了後に音楽が切られたと主張しているが、実際は大歓声によってかき消されており、自国開催に関わらず、様々な国・地域の方々が応援してくれていたことが強く記憶に残っていると話す。

○個人ワーク ~ グループワーク 等



個人ワーク発問：運動の時間に感じたオリンピックバリューを書き出してみよう。

グループワーク発問：体育祭または文化祭においてオリンピックバリューをどのように活かすか考えよう。

発表：エクセレンス：「練習から全力で取り組む」「最後まで諦めずやりきる」「勝敗関係なくベストを尽くす」等

フレンドシップ：「声を掛け合いながら協力する」「チームワークを大切にする」等

リスペクト：「決められたルールを守る」「考えることを大切にする」「お互いを高め合う」等



・オリンピックバリューの3つの価値は何事にも当てはめて考えることができる。オリンピックを特別に感じる人もいると思うが、選手が考えていることは皆にとっても身近なことである。普段の勉強や部活動にオリンピックバリューを落とし込み、自分がどのような行動を取るべきかを考え、そして、より豊かな生活を送ってほしいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 小塚 崇彦 先生 (スケート/フィギュアスケート) 【出場オリンピック/バンクーバー2010冬季大会】

■ **期 日** : 2022年7月8日(金)

■ **ク ラ ス** : 2年2組/運動の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ 準備体操



・生徒にスケート/フィギュアスケート競技を観たことがあるかを問い掛け、バンクーバー2010冬季大会に出場したと自己紹介。オリンピックバリューの3つの価値について、エクセレンス:「卓越」「最後まで諦めない」、フレンドシップ:「友情」「仲間」「チームワーク」、リスペクト:「敬意/尊重」「ルールを守る」と説明し、運動の時間では、オリンピックバリューを念頭に、皆で協力して取り組んでほしいと伝え、準備体操に移る。

○主運動 等



・準備体操としてスキップやサイドステップ等の現役時のウォームアップを実施。準備運動として「新聞じゃんけんバランス」を実施(全2回)。
 ・主運動として「ボール渡しリレー」を実施(全2回)。班対抗として、スタート地点から、折り返し地点を回りゴールするまでに全員がボールを触る。全員が必ず折り返し地点を回り、ボールを所持している人はその場から動かない等として実施。



・運動の時間を振り返り、1回目より良い結果を出すため、ルールをよく聞き、班毎に意見を出し合い、ルールを理解した上で実行に移っていた。どの班も分からないことを質問し、ルールを読み解いたからこそ失格者が出ることはなかった。座学の時間では、運動の時間に体感してもらったオリンピックバリューの3つの価値について詳しく掘り下げていきたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 小塚 崇彦 先生 (スケート/フィギュアスケート) 【出場オリンピック/バンクーバー2010冬季大会】

■ **期 日** : 2022年7月8日(金)

■ **ク ラ ス** : 2年2組/座学の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ オリンピックの価値を伝える



・運動の時間を振り返り、オリンピックバリューを意識し、ルールをよく考えて、意見を出し合いながら作戦を練っており、様々なルールの読み解き方があり、大変興味深かった。オリンピックシンボルについて、5大陸が団結している姿と、使用されている6色でほとんどの国旗を描くことができると説明。

○個人ワーク ~ グループワーク 等



個人ワーク発問：運動の時間に感じたオリンピックバリューを書き出してみよう。
 グループワーク発問：体育祭または文化祭において、オリンピックバリューをどのように活かすか考えよう。
 発表：エクセレンス：「練習から一生懸命取り組む」「全員で作戦を立てる」「負けても諦めない」等
 フレンドシップ：「お互いに励まし応援し合う」「アドバイスをし合う」「仲間を信じる」等
 リスペクト：「友達の意見を尊重する」「反則をしない」等



・オリンピックバリューの3つの価値を普段の生活に落とし込んで考えた時、エクセレンス：「学校で一生懸命勉強に励むこと」、フレンドシップ：「分からないことをお互いに教え合う」、リスペクト：「テストを作ってくれる先生に感謝しカンニングをしない」等、当てはめることができる。オリンピックバリューは特別なことではなく普段から感じていることなので、今後の生活でもオリンピックバリューに落とし込んで取り組み、豊かな心でより良い生活にしたいと伝え、授業終了。

■集合写真

・2年1組



・2年2組



■ 記念品贈呈

・2年1組



・2年2組



■ 修了証贈呈

